
はじめに

平成23年3月11日14時46分、東北地方と関東地方の太平洋側沿岸部を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生から6年余りが経過しました。震災により本県農林水産業が受けた傷はあまりにも深く、農地、農業施設、漁港、数多くの漁船や養殖施設、さらには、水産加工や木材加工施設を含む多くの生産基盤が破壊され、残されたガレキや泥の堆積、広範囲な地盤沈下など、震災直後の壊滅的な状況を前にし、農林漁業者の事業再開までの道のりは大変厳しく、復旧には、相当な時間を要すると誰しもが考えました。

また、生産基盤の復旧が遅れば、多くの担い手が農林水産業から離れてしまうのではないかと懸念もありました。

平成23年10月、本県では、宮城県震災復興計画を策定し、震災からの復興を県政の最優先課題と位置付けて、単なる復旧にとどまらない創造的な復興に全力で取り組んでまいりました。

震災から今日まで、農林漁業者の復興に向けた懸命な御努力と多くの皆様の御理解、御協力により、先端技術を導入した大規模園芸施設による農産物の生産拡大、合板・製材工場の生産能力の増強、高度衛生管理型魚市場での新鮮な魚介類の水揚げ再開など、復興への歩みを一步一步着実に進め、生産基盤は震災前の水準にまで整いつつあります。

道半ばではありますが、ここまで復興を推し進めることができたのは、国、全国の地方自治体、関係機関や企業などの多くの皆様による多大なる御支援の賜物であると深く感謝申し上げます。

このたび発刊することになりました本書は、平成25年6月に発刊しました「東日本大震災～発災直後から一年間の災害対応の記録～」に続く記録誌として、平成24年度から平成27年度までの4年間に、農林水産部が直面した課題にどのように取り組み、乗り越えてきたのかについて、その対応の状況を取りまとめたものです。震災の記憶を風化させることなく、後世に伝えるための記録として、本書が、全国の行政関係者の皆様にとって、大規模災害に備えた防災、減災対策の一助となれば幸いです。

平成29年9月

宮城県農林水産部長 武藤 伸子
